

ISISが誕生した歴史、社会的な背景と理由

(イランラジオ日本語放送 2015.03.22 14:13)

これまでのこの時間には、テロ組織ISISの思想の基盤やこのグループの誕生の背景についてお話ししました。また、ISISのアルカイダからの分離、そしてこのグループの誕生と強化におけるサウジアラビアとトルコの役割についてもお話ししてきました。

今回のこの時間は、ISISが誕生した歴史、社会的な背景、その理由についてお話ししましょう。

ISISは、実際、アルカイダ系のグループと見なすことができます。アルカイダは、80年代の主にアラブ諸国の戦士たちとアフガニスタンのソ連赤軍の兵士たちで構成された組織でした。このときまで、アルカイダは、パキスタン、アメリカ、イギリス、その他、サウジアラビアをはじめとする一部のアラブ諸国の治安機関の支援を受けていました。そのような支援を受け、アルカイダは、タリバンと共に、アフガニスタンのムジャヒディン政府と戦いました。ムジャヒディン政府はカーブルで崩壊し、タリバンが、アフガニスタン領土の90%を支配しました。

タリバンとアルカイダがアフガニスタンで、イスラムの名を借りた過激で偏狭な思想による中世のやり方によってアフガニスタンの人々を統治し、欧米諸国やパキスタン、サウジアラビアの政策に従っていた頃まで、彼らはそれらの国の全面的な支援を受けていました。それらの国の一部の首都には、事務所まで設置されていました。しかし、2001年のアメリカ同時多発テロ事件後、すべてが変化しました。タリバンとアルカイダは、サウジアラビアを統治するワッハーブ派の偏狭な思想により、突如、最大のテロ組織となり、世界の治安を脅かしました。そして、彼らに対抗するために、世界レベルでの連合の結成が不可欠となったのです。

アメリカを統治していた新保守派は、テロとの戦いを口実に、アフガニスタン、その後イラクを攻撃しました。アメリカがアフガニスタンとイラクで行った行動は、テロをなくすどころか、反対にそれを何倍にも拡大しました。アフガニスタンとイラクで、大勢の人がテロの犠牲になり、今もそれは続いています。これらの国の人々は、アメリカ軍の標的にされる一方で、タリバンやアルカイダといったタクフィール主義のテログループの標的にもなりました。実際、アメリカのイラクとアフガニスタンにおける過去13年間の行動は、テロと過激派の基盤を強化することになったのです。

テロ組織ISISは、このようにイラクで緊張や危機、情勢不安が拡大する状況の中で生まれました。イラクがアメリカに占領された後、イラク軍が崩壊し、民族的、宗教的な対立を煽るための努力が、イラクに過激派が生まれる状況を作り出しました。

ISISが生まれたいきさつについては、2つの見解が存在します。一つは、このタクフィール主義のテロ組織の誕生を、民族的、宗教的な対立とイラクの中央政府の無力さの結果ととらえる考え方です。もう一つは、アメリカの治安機関が、その地域の同盟国、特にサウジアラビア、アラブ首長国連邦、トルコの協力を得て、この組織を結成したという見解です。実際、ISISの誕生には、この両方が関わっています。アメリカとその地域の同盟国は、イラクでの民族的、宗教的な対

立を、イラクでの暴動の拡大と、イラクやシリアでのタクフィール主義のテロ組織の誕生のために最大限に利用したのです。

2003年にイラクがアメリカ軍に占領された後、ザルカウィを指導者とする「タウヒードとジハード集団」という名の組織が結成されました。ザルカウィは、オサマ・ビン・ラディンに忠誠を誓い、この組織を、イラクのアルカイダ系の組織であると発表しました。ザルカウィは、2006年、映像の中で、アブドルラシッド・バグダディを指導者とするムジャヒディン評議会の結成を明らかにしました。この年にザルカウィが死亡した後、アブハムザ・ムハジルが新指導者となりました。この年の末には、アブウマル・バグダディを指導者とするイラク・イスラム国が結成されました。2010年、アブウマル・バグダディとアブハムザ・ムハジルは、イラク軍とアメリカ軍の共同作戦の中で死亡しました。

アブウマル・バグダディが死亡した後、アブバクル・バグダディがその後継者として紹介されました。彼が指導者となったことで、このテロ組織の攻撃が拡大し、シリアで危機が始まるのと同時に、このグループのイラクでの活動が高まりました。2011年末、シリアでの内戦や危機が始まった頃、ヌスラ戦線がイラクのイスラム国の支部として結成され、急速に活発なテロ組織の一つとなりました。2013年には、イラクのイスラム国の指導者、アブバクル・バグダディが、音声によるメッセージの中で、イラクのイスラム国とヌスラ戦線の統合を発表し、これにより、I S I Sとして知られるイラクとシャームのイスラム国が誕生しました。

アブバクル・バグダディと、アルカイダの戦略担当者であるアイマン・ザワーヒリーの間で対立が起きました。それを受け、バグダディは、I S I Sはもはやアルカイダの支部ではないとアルカイダからの離脱を発表しました。I S I Sとヌスラ戦線との衝突はシリアで起こり、双方のメンバー数百人が、この戦闘で殺害されました。こうしてI S I Sは、作戦をイラクからシリアへと拡大し、シリア政府軍との戦いに敗北した後、イラクに戻りました。

民族的、宗教的な対立、イラクの治安機関と政府軍へのバース党の残党勢力の影響により、I S I Sは、イラク第二の都市であるモスルをはじめとするイラクの領土の一部を占領しました。I S I Sは、旧バース党とスンニー派のメンバーで構成されています。彼らはI S I Sのプロパガンダの影響を受け、I S I Sに加わりました。

2003年にイラクが占領された後、まもなく、当時のイラク暫定占領当局の責任者であったポール・ブレマーが、バース党の残党勢力によるクーデターを恐れ、軍の解散を命じます。イラク政府軍は、その規模の大きさに加え、サッダームフセイン時代に多くの特典を有していましたが、軍の解散後、その多くの将校が職を失いました。こうした軍の人々の11万人から16万人が、I S I Sが現在活動を行っている3つの州にいます。その3つの州は、ファルージャを中心都市とするアンバール、モスルを中心都市とするニナワ、そしてティクリートを中心都市とするサラーフディーンです。とはいえ、イラク軍の元兵士の全てがI S I Sに加わったわけではありませんが、この地域はI S I Sの戦闘員を集めやすい地域となっています。

スンニー派の不満を抱く人々、この頃に多くの特典を失ったバース党の残党勢力、そしてシリア

の過激派が、この I S I S の主なメンバーとなっています。イラクの政治、経済の舞台から遠ざけられたと感じているスンニー派、イラクの軍と治安機関の内部の裏切り、シーア派の政治的な流れの中の対立、これらにより、I S I S は短期間で 1,500 人のメンバーによって、2014 年 6 月、大都市モスルを占領し、その後も急速に他の都市を占領していきました。

ラクの広範な地域、特に産油地域の占領は、I S I S が独立した収入源を手にするのを可能にしました。I S I S は、イラク北部の一部の州やシリアのラッカの石油を売却することで、莫大な収入を手に入れました。とはいえ、彼らの収入の一部は、イラクとシリアの政府や国民の財産の強奪と、地元の密輸業者や商人からの税金の徴収からまかなわれています。このような莫大な収入により、I S I S は、闇市場や自由市場から、最新の武器を購入することができているのです。

今回のこの番組では、世界各地から I S I S に加わる人々の動機、そして I S I S への国民の加入を促している西側とその地域の同盟国の政府の役割についてお話する予定です。

<http://bit.ly/1EHCRGe>

イスラムの教えと I S I S の行動の違い

(イランラジオ日本語放送 2015.03.29 21:08)

今回の番組では、I S I S の基盤がもろい理由と、イスラムの教えと彼らの行動の違いについてお話しします。

I S I S のメンバーの一部は、2003 年のアメリカのイラク占領後に崩壊したイラク軍のバース党残党勢力とイラクの中央政府に不満を抱くスンニー派の信者たちです。アルカイダ、そしてその後の I S I S は、政治、民族、宗教、経済の対立を最大限に利用し、イラクで不満を抱く人々を惹きつけました。その中で、サウジアラビア、トルコ、U A E アラブ首長国連邦が、アメリカの中東政策にそって果たした役割も無視すべきではありません。彼らはイラクで人々の投票により、民主的で強力な中央政府が樹立してしまうことを、自分たちの利益に反するものと見ています。そのため、サウジアラビア、トルコ、U A E は、イラクの政治、民族、宗教の対立を煽り、民主的で強力な中央政府の樹立を阻止しようとしています。イラクでタクフィール主義のテロ組織が強化されているのもそのためです。

I S I S の誕生が宣言されて以来、これまでに各国の大勢の若者たちが、シリアやイラクでこのグループに加わり、「ジハード」を主張してその戦いに参加しています。ここで一つの疑問が浮かびます。一体何が動機となって、ふつうの人間が、I S I S やヌスラ戦線などのシリアで活動するテロ組織に加わることになるのでしょうか？

世界各地、とくにアラブ諸国から I S I S に加わる人々の動機の一つは、宗教的なものです。ワッハーブ派の影響を受け、ワッハーブ派の学校で教育を受けてきた人々は、タクフィール主義のテロ組織に加わる多くの潜在的な可能性を有しています。これらの学校は、公正を追求し、人間を形

成するイスラムの崇高な教えとは何の関係もない事柄を子供たちに教えています。こうした学校で教えられる事柄は、イスラムの他の宗派の信者たちに対する憎しみや嫌悪を抱かせるものです。

ワッハーブ派は、サウジアラビアのオイルマネーを投じ、イスラム諸国やイスラム教徒を少数派とする西側の社会で大規模なプロパガンダを展開し、イスラム教徒を仲間に引き入れようとしています。彼らは学校や様々な形の宗教施設を設立し、イスラム教徒の若者たちをワッハーブ派の思想に引き込もうとしています。一般に、社会の貧しい階層に属する若者たちがそれに引き込まれ、I S I Sに加わっています。

シリアにおける西側の危機を作り出そうとする動きが高まった後、サウジアラビアのワッハーブ派の宗教指導者ムフティが教令を出しましたが、それは明らかに、イスラム法に矛盾し、イスラムの弱体化を招くものです。この教令の一つが、「結婚のジハード」でした。イスラムでは、宗教指導者は、聖典コーランと預言者ムハンマドの言行をもとに教令を出さなければならないとされています。スンニー派とシーア派の対立の一つは、イスラム法の典拠の問題です。シーア派は、コーランと預言者ムハンマドの言行だけでなく、理性や合意事項も、イスラム法の典拠として認めています。しかし、預言者の伝統的な信者を主張するワッハーブ派の宗教指導者たちは、時に、コーランや預言者のやり方だけでなく、非合理的な教令を出しています。

「結婚のジハード」は、イスラムでは大きな罪とされ、イランのシーア派最高権威であるマカーレム・シーラーズィー師は、それは墮落のジハードだとしています。実際、結婚のジハードとは、イスラム法を名目に、女性たちに性的な奴隷となることを強いるものです。様々な国、引いてはヨーロッパからイラクやシリアにやって来た女性たちが、この教令に欺かれています。彼女たちの多くは、シリアやイラクに入った後、恐ろしい現実と直面しました。彼女たちは、イスラムが墮落した悪魔のような人間たちによって、欲望を満足させるための道具になっていることを悟ります。結婚のジハードは、ワッハーブ派の宗教指導者の教令によって、自らの行動を正当化するI S I Sのようなグループの本質を示しています。

様々な国からI S I Sに加わった数万人の人を、いくつかのグループに分けることができます。第一のグループは、I S I Sに騙され、このグループが、イスラムの預言者の伝統を復活させるために活動していると信じ、シリアやイラクに渡航した人々です。このような考え方によってI S I Sに加わった多くの人々は、無知のままか、あるいはこのグループの他のメンバーと同じように、その残酷な犯罪や圧制に加担するか、あるいはI S I Sの実態を知って国に帰ろうとします。とはいえ、逃げるのに成功した人はごくわずかです。彼らの中には、I S I Sの人道に反するテロリストとしての本質を暴いた人々もいます。国に帰ろうとしたメンバーが首を切られて殺害されたというニュースが、ほぼ毎週のように伝えられています。

第二のグループは、自国で犯罪を犯したり、長い年月を刑務所で過ごしたりした人々で、再び罪を犯して収入を得るためにI S I Sに加わった人々です。週刊誌エコノミストは、西側諸国の市民がI S I Sに加わり、シリアでの戦闘に参加する動機に触れ、次のように記しています。

「I S I Sのメンバーとなった西側の人々は、もしかしたら、それまでフランスやイギリス、

アメリカの街を歩いていた殺人者かもしれない。それは誰にも分らない」

国連は、昨年 11 月の報告の中で、各国から I S I S に加わった外国人の数を 1 万 5,000 人と発表しました。中でも、こうした人々が I S I S に加わるために主に利用している国境はトルコです。トルコからは、4,000 人近くが I S I S に加わったと言われています。シリア政府に対するトルコ政府の敵対政策は、これほどの数のトルコ人が I S I S に加わったことに大きな影響を及ぼしています。

あらゆる組織やグループが存続するためには、共通の特徴や信条が必要です。そのため、I S I S を統一の取れた永続するグループと見なすことはできません。なぜなら彼らの信条は、長期に渡って、このテログループを存続させるようなものではないからです。彼らは、イスラムの歪曲と逸脱した思想を持ちながら、真のイスラム教徒であるように装おうとしています。彼らの行動は、彼ら自身の盲目的、偏狭的で誤った信条をも超えたものです。

I S I S の多くのメンバー、特にその幹部の人生は、欲望に従った圧制、犯罪で穢されています。彼らは、しばらくの間、ある地域で生活を送れば、その地域の人々に実態を暴かれ、人々の憎しみや嫌悪を招いています。そのため、こうした地域の人々は、彼らに敵意を抱き、その結果、シリアやイラクで、I S I S と戦うために、政府軍や義勇兵に協力しています。

しかし、I S I S が存続し、新たなメンバーを惹きつけている理由の一つは、人々の財産を強奪したり、石油の密売によって得ている莫大な収入にあります。I S I S の幹部は、西側諸国からやって来たメンバーをとどまらせるために、彼らに多くの資金を与えています。

イラクの政府軍や義勇兵が I S I S との戦いで多くの成功を収めているため、I S I S は劣勢に立ち、防御に入っています。I S I S が占領していた地域を次々に失っていることは、彼らの財源の減少と多くのメンバーの戦闘意欲の喪失を意味します。I S I S がいくつかの都市から撤退し、司令官たちが首を切られた後、多数の外国人が殺害されたことは、このグループが、どれほど窮地に立たされ、長期に渡って多国籍のメンバーの統一を維持することが難しいかを示しており、彼らは次第に衰亡へと向かっていくでしょう。

<http://bit.ly/1IIyWKO>